

2020年度 子どもの心の発達セミナー

児童、青年、家族のトラウマ理解に向けて

2020年度は、「トラウマ」という観点から、子ども、青年、家族の心の発達について学んでいきます。

私たちが、医療の場、児童養護施設、母子生活支援の場、学校などで出会う子ども、青年、家族は、さまざまな形でトラウマを体験していると言えます。トラウマ体験をもつ人たちの支援に取り組むとき、個人のトラウマ体験はもちろんのこと、その人を取り巻く人たちの関係性、さらには、専門家集団の力動にも注意を向け、理解していくことが助けになると考えられます。それは、個人の内的世界（内在化された体験および対象との関係性）は外的世界と密接に関連していると想定できるからです。

各回、前半は講義、後半は事例検討で構成されます。受講生がより積極的に参加できるよう、小グループに分かれてのディスカッションも取り入れる予定です。

◆第1回目 2021年1月24日（日）13時～17時

講師 鈴木 誠 （くわな心理相談室）

講義内容 精神分析の実践領域は、個人とグループの関係性、集団力動、グループ全体とメンバーの関係性の理解へと広げる必要があります。特に学校や総合病院、児童養護施設などでトラウマを抱えた親子や患者のケアをする多職種協働チームの一員として仕事をする際に重要です。しばしばチームは機能不全状態で、個人への援助を有効にするには、その病理的組織化の理解と介入が必要だからです。このテーマを考える機会にしたいと思います。

◆第2回目 2021年1月31日（日）13時～17時

講師 奥寺 崇 （クリニックおくでら）

講義内容 “Psychoanalytic Psychotherapy of the Severely Disturbed Adolescent”(2019, Routledge)、第3章“The Influence of Psychic Trauma on Adolescence and its Disorders”をテキストとして取り上げます。そこでは1)直近に起こった出来事に関連するもの、2)事象そのものが外傷とは捉えがたい潜在性の外傷に由来するもの、3)早期に体験しパーソナリティ形成に影響を及ぼす外傷体験が思春期に顕在化したものに分けて、症例をもとに治療について考察されています。参加者の経験も含めて相互的に理解を深め検討する機会にしたいと思います。
(受講者には、第3章のコピーを事務局経由でお送りさせていただきます。)

ファシリテーター：脇谷順子（杏林大学保健学部/認定NPO法人子どもの心理療法支援会）

【対象】 医療、福祉、教育、司法領域等で児童青年に関わっている専門家、近接領域の専門家、大学院生

【受講料】 12000円（全2回） / 7000円（1回）

*定員を超えた場合、全2回のお申込者を優先的に受付させていただきます。

【定員】 30名

【会場】 小寺記念精神分析研究財団 セミナールーム（最寄駅：丸ノ内線 四谷三丁目）

主催：小寺記念精神分析研究財団

